

大島巖 教授 最終講義およびシンポジウム



日本社会事業大学社会福祉学部の大島巖教授が、令和3年3月末日をもちまして、定年退職されることとなりました。長年にわたる先生のご功績に敬意を表し、先生のご指導に感謝し、下記のとおり大島先生の最終講義を催したく存じます。

また「終わりの会ではなく、次につながる場にしたい」という大島先生の思いを受け、過去を振り返るだけでなく、現在、そしてこの先の展望に目を向けて議論するシンポジウムを併せて行います。大島先生の教えを受けた学生・院生、実践や研究で協働した関係者をシンポジスト・指定発言者に迎え、“当事者のリカバリー実現をみざす協働型「プログラム開発と評価」の方法～マクロ実践ソーシャルワークの新しい可能性～”のテーマのもと、ご参加する皆さまとも意見交換をできる場にしたいと存じます。

大島巖教授 最終講義およびシンポジウム

日時：令和3年2月28日（日）午後1時～5時

場所：Zoomによるオンライン開催

最終講義（午後1時～）

当事者のリカバリー実現をみざす協働型「プログラム開発と評価」の方法
～マクロ実践ソーシャルワークの新しい可能性～

大島先生は、学部教育では、精神障害のある人とその家族のリカバリーを志向する支援のあり方、精神保健福祉士として身に着けるべき視点や力量を学生に教授されてきました。研究では、多くの研究者と協働して社会福祉分野における“実践家参画型プログラム開発と評価”のアプローチ方法を構築し、大学院教育においてマクロ実践を展開できる研究者・実践家を養成されてきました。最終講義ではこれらの視点に至った経緯やその成果、この先の展望を、大島先生の思い含めてご講義いただきます。

シンポジウム（午後3時～）

シンポジスト

大山早紀子氏（川崎医療福祉大学医療福祉学部・講師）
岡田奈央子氏（NPO法人NECST・精神保健福祉士）
山野 則子氏（大阪府立大学人間社会学研究科・教授）
吉田 光爾氏（東洋大学大学院ライフデザイン学研究科・教授）

指定発言者

磯田 重行氏（日本ピアスタッフ協会・会長）
田尾有樹子氏（社会福祉法人巣立ち会・理事長）
源 由理子氏（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科・教授）

座長 藤岡 孝志氏（日本社会事業大学・教授）

【50音順】

大島先生の最終講義と同テーマのもと、大島先生と教育、実践および研究で関わりのある方々にシンポジストとして登壇いただきます。大島先生との関わりや思い出にも触れながら、それらが各シンポジストの実践や研究等にどのように活かされ、展開されているのか、今後の展望を含めて発言いただきます。指定発言、およびご参加の皆さまとの質疑も交えながら、意見交換をできる場にしたいと思います。

交流会（午後5時～）

シンポジウム終了後、オンラインでの交流会を行います（60～90分程度を予定）。大島先生との思い出を語りながらぜひご交流ください。

大山早紀子 氏（川崎医療福祉大学医療福祉学部・講師）

元・日本社会事業大学通信教育科教員（精神保健福祉士短期養成課程主任）。日本社会事業大学大学院博士後期課程で大島先生の指導のもと博士号取得。プログラム評価の理論と方法論により、精神科デイケアとアウトリーチ統合型プログラムの形成評価に着手。

岡田奈央子 氏（NPO法人NECST・精神保健福祉士）

日本社会事業大学社会福祉学部卒業（精神保健福祉士課程9期生）。現職場では、海外で効果が実証されている精神障害のある人を対象とした、就労支援プログラム（IPS：Individual Placement and Support）を日本の制度下で展開する実践に従事。

山野則子 氏（大阪府立大学人間社会学研究科・教授）

大阪府教育委員会スクールソーシャルワーク事業スーパーバイザー。大島先生とプログラム評価の研究で共同し、効果のあがるスクールソーシャルワーカー配置プログラムを展開。「実践家参加型エンパワメント評価の理論と方法－CD-TEP法：協働によるEBP効果の構築」で大島先生と共編著。

吉田光爾 氏（東洋大学大学院ライフデザイン学研究科・教授）

元・日本社会事業大学社会福祉学部教員（第3代精神保健福祉士課程主任）。東京大学大学院博士課程で大島先生の指導のもと博士号取得。海外で効果が実証されている精神障がいのある人を対象とした包括型地域生活支援プログラム（ACT：Assertive Community Treatment）やIPSを研究。

田尾有樹子 氏（社会福祉法人巢立ち会・理事長）

元・日本社会事業大学通信教育科教員。日本の精神科病院における社会的入院の課題を解決に導く先駆的な“巢立ち会モデル”を構築。制度化以前から退院促進の取り組みを展開。

源由理子 氏（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科・教授）

日本評価学会理事。JICA、NGO等のほか、日本の自治体やNPOにおける評価制度の構築を手掛ける。「実践家参加型エンパワメント評価の理論と方法－CD-TEP法：協働によるEBP効果の構築」で大島先生と共編著。

磯田重行 氏（日本ピアスタッフ協会・会長）

リカバリーセンターくるめ 施設長。自らのリカバリーの経験を活かした精神障がいのピアスタッフとして精神保健福祉実践を行うと同時に、ピアスタッフの活動をサポートする全国的な活動も展開。

【お申し込み方法】

- ・ PeatixまたはFaxにて、**2/26（金）**までにお申し込みをお願い致します。
- ・ お申し込みいただいた後に、Zoomの情報および当日資料（PDF）をお送りします。

Peatixの場合

下記のURL、または右のQRコードよりPeatixにアクセスしてお申し込み下さい。

URL: <https://oshima-saishukogi.peatix.com/>

**Faxの場合**

添付の申込用紙に必要事項をご記入のうえ、下記までお送りください（送付状等は不要です）。

Fax番号: 042-496-3157（日本社会事業大学 費川研究室）

【参加費】 最終講義、シンポジウム、交流会は、いずれも参加費は無料です。

【メッセージおよびご寄付のお願い】

- ・ 可能でしたらお申し込み時に大島先生へのメッセージをお願い致します。頂戴したメッセージは、後日みなさまにお送りする最終講義集（PDF）にも掲載いたします。
- ・ また、大島先生への感謝の印として記念品・花束を贈呈します。ご協力頂ける場合は、記念品・花束のための寄付をいただけますと幸甚です（500円から）。
ご寄付はPeatixでお申し込みと合わせて受け付けております。
- ・ Faxでお申し込みの場合でも、お手数ですが、ご寄付はPeatixよりお願い致します。
- ・ 当日ご出席いただけない場合でも、Peatixにてご寄付のみの受付も可能です。

「大島 巖 教授 最終講義およびシンポジウム」

発起人代表 費川信幸

発起人 有村大士、小原真知子、酒本知美、下垣光、藤岡孝志、古屋龍太、吉田光爾

実行委員 浦野由佳、大原さやか、大山早紀子、新藤健太、高野悟史、中越章乃、仁科雄介、西村聡彦、方真雅

※ご連絡先（E-mail） oshima.saishukougi@gmail.com

- ★「大島巖 教授 最終講義およびシンポジウム」は有志による企画・運営です。日本社会事業大学へ直接お問い合わせをされないようご注意ください。